

授業科目の区分	専門基礎分野《人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進》		
授業科目	人体の成り立ちと生活		
開講年次・学期	1年次・前期		
単位（時間）	1（30）		
担当講師	① 《所属：倉敷中央病院 外科医師》 ② 《専任教員》看護師としての実務経験あり		
科目のねらい	解剖学と生理学は、正常な人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問である。人体がどのようにできているか、人体を構成する細胞、人体の見かたについて、各論に続く導入として学ぶ。さらに、人間の生命活動とはいかなるものか、看護師はなぜ体のしくみを学ぶのか、主体的な学習を通して体のしくみを理解し、看護とのつながりを考える。		
	1 2 3 (6h)	1. 人体の構造と機能を学ぶために 1) 人体の構造と機能について何を学ぶのか 2) 人体をどのように学ぶのか 2. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1) 人体とはどのようなものなのか 2) 人体の素材としての細胞・組織 ①細胞の構造 ②細胞を構成する物質とエネルギーの生成 ③細胞膜の構造と機能 ④細胞の増殖と染色体 ⑤分化した細胞がつくる組織 3) 構造と機能からみた人体 ①構造からみた人体 ②機能からみた人体 ③体液とホメオスタシス 4) 体温とその調節	①
	1 2・3 4・5 6・7 8・9 10 11・12	ガイダンス 私たち自身のからだはひとつの生命体としての活動を身体内部・外部で営んでいる。まずは自らの営みを意識してみることからはじめ、解剖生理学を学ぶことの意義について考える。 「食べる」 「排泄する」 「生きる」 「まもる」 プレゼンテーション準備と筆記試験 プレゼンテーション	②
必携文献	1) 坂井建雄：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院, 2022.		
参考文献	1) 高橋長雄監修：新版からだの地図帳, 講談社, 2013.		
成績評価方法	①は、終了後に試験を行う。 ②はレポートと試験を行う。 ①②はそれぞれ6割以上で合格とする。		
備考			

授業科目の区分	専門基礎分野《人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進》	
授業科目	解剖生理学・病態生理学と治療IV(内分泌・代謝・アレルギー・膠原病)	
開講年次・学期	1年次・後期	
単位(時間)	1(30)	
担当講師	① 《専任教員》看護師としての実務経験あり ② 《所属：倉敷中央病院 内分泌代謝・リウマチ科内科医師》 ③ 《所属：倉敷中央病院 糖尿病内科医師》 ④ 《所属：倉敷中央病院 非常勤医師》 ⑤ 《所属：倉敷中央病院 内分泌代謝・リウマチ科内科医師》	
科目のねらい	<p><b>【解剖生理学・病態生理学と治療のねらい】</b>          看護の基礎となる生活を営む人間のからだの構造や機能を理解する。また、健康状態から逸脱するときからだの異常や疾病の成り立ちについて、生体の反応として解剖生理と関連させ理解する。また、その根拠を基とし検査・治療の基礎知識を学ぶ。</p> <p><b>【解剖生理学・病態生理学と治療IV(内分泌・代謝・アレルギー・膠原病)のねらい】</b>          内分泌・代謝・アレルギー・膠原病に関係する器官の構造・働きと、疾病に関する病態、治療、検査等について理解する。</p>	
授業計画	1. 内分泌器官の構造と機能 2. 疾患の病態・治療・検査 1) 症状とその病態生理 2) 内分泌疾患の検査 ①ホルモン負荷試験 ②画像検査(甲状腺、副甲状腺、副腎) 3) 疾患と治療 ①プロラクチン産生腫瘍 ②成長ホルモン産生腫瘍 ③ACTH産生腫瘍 ④下垂体機能低下症 ⑤尿崩症 ⑥慢性甲状腺炎 ⑦バセドウ病 ⑧甲状腺機能低下症 ⑨副甲状腺機能亢進症 ⑩副甲状腺機能低下症 ⑪原発性アルドステロン症 ⑫クッシング症候群 ⑬原発性副腎皮質機能低下症 ⑭褐色細胞腫	① ②
	1. 代謝の概要と機能 2. 疾患の病態・治療・検査 1) 症状とその病態生理 2) 代謝疾患の検査 ①中間代謝産物とその異常 ②糖尿病の診断治療に関連した負荷試験 3) 治療 ①食事療法 ②運動療法 ③薬物療法 4) 疾患の理解 ①糖尿病 ②脂質異常症 ③肥満症とメタボリックシンドローム ④尿酸代謝異常	③
	1. 免疫のしくみとアレルギーの機序 2. 病態・治療・検査 1) 症状とその病態生理 ①薬物のアレルギー ②アナフィラキシー 2) 治療 (1) 薬物療法 ①抗アレルギー薬 (2) 減感作療法	④

	<p>1. 自己免疫疾患とその機序</p> <p>2. 疾患の病態・治療・検査</p> <p>1) 症状とその病態生理</p> <p>2) 治療</p> <p>(1) 薬物療法</p> <p>①ステロイド薬 ②免疫抑制薬 ③抗リウマチ薬</p> <p>(2) 疾患の理解</p> <p>①関節リウマチ ②全身性エリテマトーデス ③強皮症 ④多発性筋炎および皮膚筋炎</p> <p>⑤血管炎症候群</p>	⑤
必携文献	<p>1) 坂井建雄：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院, 2022. (①②③④⑤)</p> <p>2) 吉岡成人他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝, 医学書院, 2019. (②③)</p> <p>3) 岩田健太郎他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症, 医学書院, 2020. (④⑤)</p> <p>4) 渡辺照男編：カラーで学べる病理学第4版, スーヴェルヒロカワ, 2019. (②③④⑤)</p> <p>5) 足立香代子他：系統看護学講座 別巻 栄養食事療法, 医学書院, 2020. (③)</p>	
参考文献	<p>1) 田中越郎著：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学, 医学書院, 2016.</p> <p>2) 高橋長雄監修：新版からだの地図帳, 講談社, 2013.</p> <p>3) 山口和克監修：新版病気の地図帳, 講談社, 2000.</p> <p>4) 日本糖尿病学会編：糖尿病食事療法のための食品交換表, 文光堂, 2013.</p>	
成績評価方法	①②, ③, ④, ⑤終了試験を行い、それぞれ6割以上を合格とする。	
備考		

授業科目の区分	専門基礎分野《人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進》			
授業科目	看護実践の基礎			
開講年次・学期	1年次・後期			
単位(時間)	1(30)			
担当講師	《専任教員》看護師・助産師としての実務経験あり			
科目のねらい	健康障害を持つ対象者の看護においては、健康障害に伴う症状や障害が日常生活に及ぼす影響が少なくなく、検査・治療に携わることからも看護師が対象者の身体状態を把握することの重要性は非常に高い。臨床で出会う対象者になるべく近い設定で事例患者に出会い、生命力の消耗や日常生活力の低下につながっている症状に着目し、身体機能の理解に基づきながら身体状態を考察したり、治療の必要性について明らかにすることを通して、身体状態を把握していく過程とその実際について学ぶ。そして、それらを少人数グループで解決していくことで、個々が主体的・創造的な学習態度・学習習慣を獲得することを旨とする。			
到達目標	1. 健康障害のある対象者の病理学的変化に基づき症状のメカニズムや治療の目的について明らかにし、対象者の身体的な健康上の問題について説明する。 2. 健康上の問題や課題を解決するために必要な学習態度・学習習慣を獲得する。			
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習
	1(2h)	講義・演習 「ガイダンス」 「健康障害のある対象者に出会う」	自己学習課題提出	振り返りシート提出
	2(2h)	演習 GW1回目	・各GWでの学習課題に基づく学習 自己学習課題提出	振り返りシート提出
	3(2h)	演習 GW2回目	同上 自己学習課題提出	振り返りシート提出
	4(2h)	講義・演習 GW3回目 「病態関連図の描き方」	同上 自己学習課題提出	振り返りシート提出
	5(2h)	演習 個人ワーク 「対象者の病態関連図を描く」	自己学習の目標・内容を明確にする	振り返りシート提出
	6(2h)	演習 GW4回目 「治療の目的について考える」	・各GWでの学習課題に基づく学習 自己学習課題提出	振り返りシート提出
	7(2h)	演習 GW5回目	同上 自己学習課題提出	振り返りシート提出
	8(2h)	演習 個人ワーク	自己学習の目標・内容を明確にする	振り返りシート提出
	9(2h)	演習 GW6回目 「対象者の要望が身体機能に及ぼす影響について考える」	・各GWでの学習課題に基づく学習 自己学習課題提出	振り返りシート提出
	10(2h)	演習 GW7回目	同上 自己学習課題提出	振り返りシート提出
	11(2h)	演習 個人ワーク 発表準備	自己学習の目標・内容を明確にする	振り返りシート提出
	12(2h)	演習 GW8回目 発表	自己学習課題(発表資料)提出	振り返りシート提出
	13(2h)	演習 個人ワーク 「発表を通じて得られた新たな視点・学習項目について学習する」	自己学習の目標・内容を明確にする。	振り返りシート提出
	14(2h)	演習 GW9回目	発表を通じて得られた学びを共有できるよう整理する 自己学習課題提出	振り返りシート提出
	15(1h)	演習 GW10回目 成長確認・共有	「成長エントリーシート」 「成長報告書」の記載。	振り返りシート記入
	16(1h)	筆記試験		全学習過程資料提出
必携文献	1) 佐藤達夫監修：新版 からだの地図帳，講談社，2013。 2) 山口和克監修：新版 病気の地図帳，講談社，2000。 3) 坂井健雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学，医学書院，2022。 4) 田中越郎著：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学，医学書院，2016。			

参考文献	1) 高木永子監修：看護過程に沿った対症看護 第5版 病態生理と看護のポイント, 学研, 2018. 2) 奈良信雄編：系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院, 2019. 3) 三輪一智他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学, 医学書院, 2019.
成績評価方法	参加姿勢やレポート提出等を含むプロジェクト学習評価 (80 点) と筆記試験 (20 点) の合計点が 6 割以上で合格とする。
備考	